



早いもので5月も半ばになりました。
最近まで雪が降っていたような気がしますが。
気づけば汗ばむ陽気。コタツやストーブともしばしお別れです。

私ごとですが、毎年ゴールデンウィークは家族と親戚も集まって田植えをします。
今年は連日天気恵まれ、青空の下での作業となりました。
長岡の田園風景も土色からうっすらと緑色に変わり、
長岡の街並みとのコントラストが美しいですね。
植えられたばかりの苗は丈が短く、見る角度によって緑が濃くなったり、
水面に青空が映えたりして、見ていて飽きません。

長靴をはいて田んぼに入り、越後平野を見渡すと、
なんだかしみじみとしてしまいます。
今では日本有数の穀倉地帯として知られますが、かつては水はけが悪く、
腰まで泥に浸かりながら農作業をしていたそうです。
おいしいお米を生み出す今日の越後平野は決して自然の恵みだけによるものではなく、
人間の手、先人たちの並々ならぬ努力によって創り出され、脈々と受け継がれてきたもの。

長岡地域の水田にどれだけの人の手が携わってきたのかと考えると感慨深いものがあります。

これから秋の収穫に向けて、水の管理や雑草の防除、
肥料をまいたり病気や害虫から稲を守るための農薬の散布など様々な行程が待っています。
どれも手のかかる大変な作業ですが、
「長岡の土は今年も元気に生きている」そんな風を感じられ、嬉しく思います。

長岡市栖吉町にある「農の駅 あぐらって長岡」では今年も田植え祭を開催するそうです。
今年で25周年を迎える息の長いイベントです。

田植えの他にもサツマイモの苗植えや採れたての野菜を使ったサラダづくりなど、
お子様連れも楽しめます。

新緑のすがすがしい空気の中で春の水の冷たさや泥の感触に触れてみては？

詳細はこちらから

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/sangyou/cate04/green/h27-tauebosyu.html>